

未来に笑顔つなぐ

B&G財団の実践

7



東京湾海洋体験
アカデミー事業部
事業課係長

林 未来

見学した後、超低温冷蔵庫でマイナス60度の世界を体感し、世界中を飛び回るマグロ商人の体験談に耳を傾けた。

見があつ
最終口
「ほかに
大きな駄
場や匠の
たぐみ

見があった。
最終日の発表会では、
「ほかに夢があつたが、
大きな船を造つてゐる現
場や匠の技を間近で見て
興味を持ち、造船所で働
きたいと思つた」「海上保
安官に憧れていたが、1
万3000人のうち36人
しかなれない特殊救難
隊の存在を知り、厳し
い訓練を積んでぜひな
りたいと思いを強くし
た」と、将来の夢を力強く
く宣言した参加者もい
た。

参加前に取った事前アンケートと比較すると、参加後は海や海の仕事に対する興味・関心が著しく高まったことが分かった。『夢は変わるものだから。子どもは移り気だから…』

「海離れ」という言葉が叫ばれるようになつて久しいが、海洋国家日本にとつて重要な産業でありながら、海洋産業の後継者不足も目を背けられない現実である。

見て、聞いて、体験して、その仕事の魅力と重要性を理解する体験型キャリア教育事業でお

見て、聞いて、体験して、その仕事の魅力と重要性を理解する体験型キャリア教育事業である。

分野横断的に多くの体験ができるよう、4泊5日の行程で実施し、学校の社会科見学や家族旅行ではできない、海のプログラミングを学ぶ一歩踏み込んだ職業体験プログラムが最大の特徴で、昨年は北海道から大阪府まで13都道府県44人の中小学生が参加した。

住友重機械マリンエンジニアリングでは、建造中の大型タンカーの内部に入り、実際の建造過程を見学するとともに、3D（3次元）のコンピューター設計やシミュレーターによる溶接作業を現場で働くプロから教わった。

帆船「日本丸」では、安全ベルトを装着してバ

ウスフリットの登しよう訓練を行い、航海士や機関士の役割や業務についてキャプテンから説明を受けた。

性化の影響について「海の博士との実験」を通じて学んだ。参加者からは「造船所のスケールの大きさに圧倒された」「危険が伴う海上保安官に女性が1割もいることがカッコイイ」と思った「マグロの尾の部分だけを見て、脂のノリが分かるプロの目に驚いた」「未知の部分が多い深海にすごく興味を持つた」など、さまざまな意

「B&G東京湾海洋体験アカデミー」は、海を舞台に活躍するプロフェッショナルの仕事現場を訪

「海のプロ」夢や目標に



昨年の東京湾海洋体験アカデミーで溶接シミュレーターを使って作業を体験する参加者

の将来について考え、一つでも多く選択肢を見つけ、海を身近に感じ、海と親しみ、継続的に海に携わってくれたらうれしく思う。

――本欄は月1回掲載し

そう抜える人もいるかも
しれない。しかし、明
確な夢や目標がないま
ま、進学・就職し、大人
になることも決して珍し
くない。

参加前に取つた事前ア